

子供主体の 授業づくり ハンドブック

山梨県教育委員会

「子供主体の授業づくりハンドブック」について

このハンドブックは、先生方が子供主体の授業づくりをイメージしやすいように、授業づくりの過程に沿って教師の視点を単元（題材）デザインとしてまとめ、各ページでポイントを説明しています。

○子供主体の授業とは？ p 1

○なぜ、子供主体の授業が求められるのか？ p 2

単元（題材）デザイン p 3

Q 教師の視点

1 子供の具体的な姿を考える p 4

2 指導計画を考える p 5-10

3 評価計画を考える p 11

◆ Q & A p 12



留意点

○子供主体の授業とは？



子供一人ひとりの興味や関心を踏まえ、個性に応じた学びを実現するために、多様な他者と協働したり、自己調整したりして学習を進める授業です。

○なぜ、子供主体の授業が求められているのか？

見過ごせない指摘

- ・教師の指示・発信がないと、学びを止めてしまう
- ・正解（知識）の暗記の比重が大きい
- ・子供たちの多様化



1人1台端末やクラウドなどのICT環境の整備

- ・授業における学び方の選択肢の広がり



変わらない願い

- ・子供たちの主体的な学びや、学級やグループの中での協働的な学びを展開することによって、自立した個人を育成



「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～
(答申)



子供主体の授業づくりに向けた単元（題材）デザイン

資質・能力 の育成

教師の視点

3 評価計画を考える

観点別学習状況の評価
形成的な評価

教師の視点

2 指導計画を考える

子供が、どのような活動を通して、何を考えるかを意識する

学
習
過
程

子供が学習課題を選択・決定する場面の設定

子供が学び方を選択・決定する場面の設定

子供が自らの学習を振り返る場面の設定

教師の視点

1 子供の具体的な姿を考える

身に付けさせたい資質・能力の明確化
教材研究

クラウドなどICT環境を日常的に活用する

1 子供の具体的な姿を考える

子供主体の授業にするために、まず何を？



これまでと大きくは変わりません。
まずは、「授業を通して身に付けさせたい
資質・能力」を確認しましょう。

子供主体の授業であっても、授業づくりの基本は変わりません。子供が、学習を通して資質・能力を身に付けている姿をイメージしましょう。評価にもつながります。

実態把握

【課題】

〇〇が弱いなあ

【強み】

友達と協力すること
は得意だ

授業（学習）

【言語活動】

プレゼンはどうかなあ

【他教科】

〇〇科と横断的に

身に付いた姿

【評価】

こんな考えをもって
ほしい！

こんなことができる
ようになってほしい！



身に付けさせたい資質・能力の明確化

- ・学習指導要領の確認
- ・子供の実態把握

教材研究

- ・各教科等の「見方・考え方」を意識
- ・教科等横断的な視点

2 指導計画を考える

子供が学習課題を選択・決定する場面の設定

子供が自ら学習に取り組むようにするには？



やはり「学習課題」が大切です。

教師が「学ばせたい」「解決させたい」と思う課題を踏まえ、子供が「学びたい」「解決したい」と思う学習課題になるように準備しましょう。

教師は、学習内容に対して、子供がどのような疑問をもつかできるだけ多く想定したり、既習事項や日常生活等との関連を図ったりすることが大切です。



子供が「学びたい」「解決したい」と思う学習課題

- ・子供がもつ疑問を想定
- ・既習事項や日常生活等との関連

子供の実態やねらい、学習内容等に応じて選択

子供が課題を選択する

課題A

課題B

課題C

※子供が選ぶことができるように、
実態等に応じて複数準備

この3つの中だったら課題B
を解いてみたいなあ。



子供が課題を決定する

既習事項

友人の考え

課題

日常生活

他教科等

※子供が自分で決めるために、
関係する事柄を想起

自分なりの課題を決める
ことができたぞ!



子供の「学びたい」「解決したい」を引き出すために、

子供がもつ疑問を想定

- ・教師が、子供が教材や題材と出合った際に抱く疑問を想定し、子供がこだわりたくなる課題を準備する。



子供がどのような疑問をもつかできるだけ多く想定しておくことで...

既習事項や日常生活等との関連

- ・子供がもつ自分なりの考えと既習事項や日常生活、友達の考えなどとの「ずれ」を意識できるようにする。



子供が自分なりの考えとの「ずれ」を意識することで...

2 指導計画を考える

子供が学び方を選択・決定する場面の設定

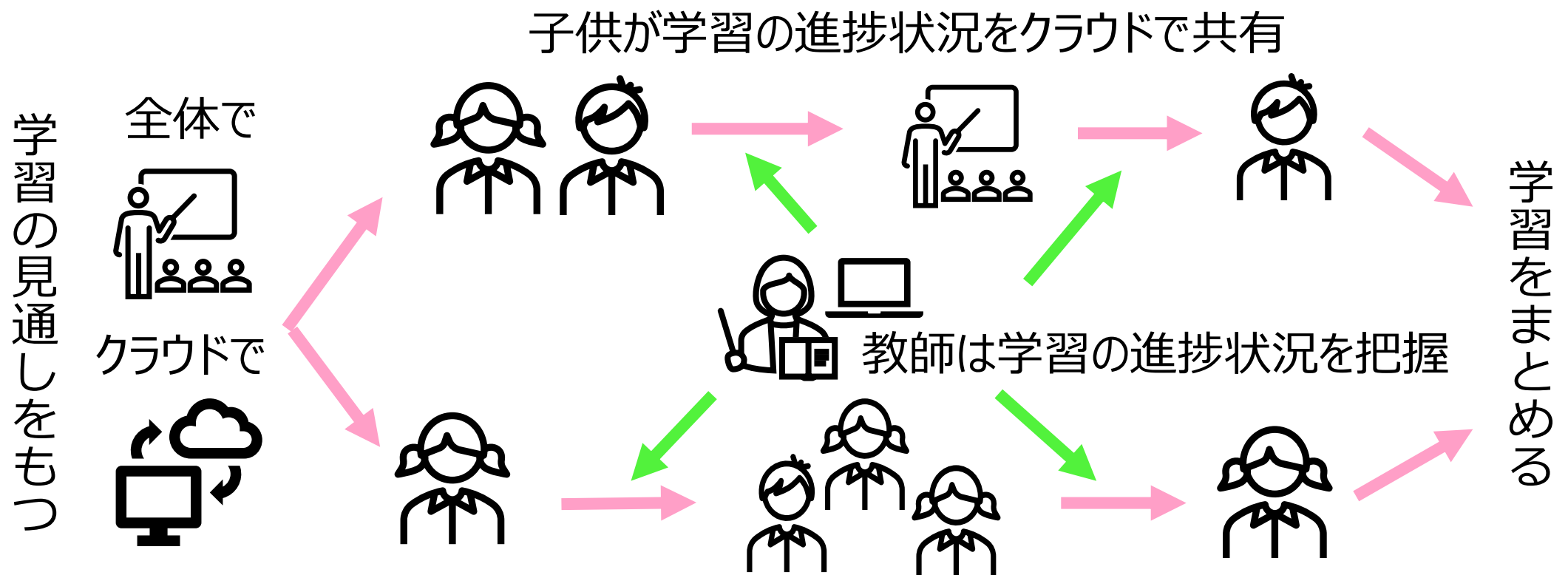


「学び方」を子供が決めるって…

学習の見通しをもたせることが大切です。



学習計画や成果物のモデルなどを全体で確認したり、クラウドで共有したりして、子供が課題解決に向けて見通しをもつことが大切です。



学習環境の工夫

- ・学習形態、学習場所、学習ツールなど、多くの選択肢を設定

ICTを活用した学習状況の把握

- ・支援や指導に生かすため、進捗状況を共有
- ・単元（題材）デザインの調整・修正

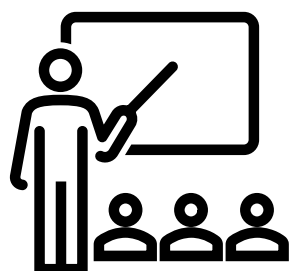
学習形態や学習場所、学習ツールなどの設定

- ・目的に応じて個やグループで学習する場を設定する。
- ・学習に応じて選択できる学習ツールを準備する。

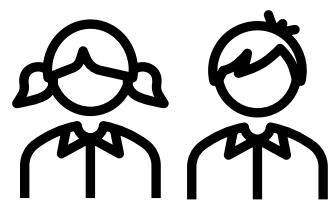
学習の進捗状況を定期的に確認

- ・クラウド共有で、一人ひとりの学習の進捗状況をリアルタイムで把握し、支援・指導する。

〈学習形態や学習場所〉



先生と一緒に

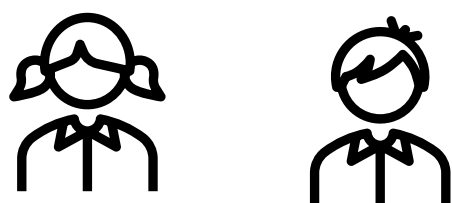


ペアで

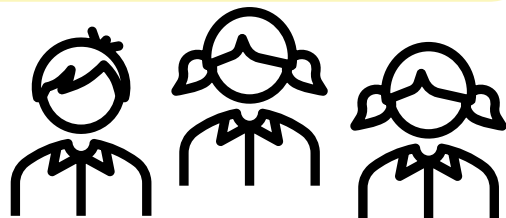


クラウドで学びをつなげる
クラウドで進捗状況を把握

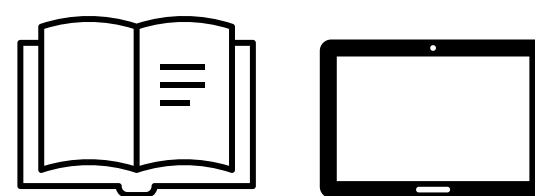
個人で



グループで



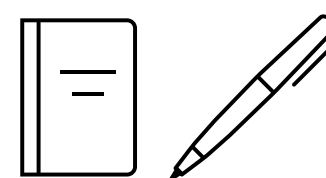
〈学習ツール〉



教科書



1人1台端末



ノート



補助教材

- ・教室以外の場所も検討
例：学校図書館、空き教室など
- ・端末の持ち帰りによる家庭学習と授業との有機的な結び付き

2 指導計画を考える

子供が自らの学習を振り返る場面の設定

学習の振り返りのポイントは？

学習内容と学び方の変化を振り返らせることが大切です。



学習の前後で、どのような力が身に付いたか、また、それがどのような学び方によって身に付いたのかを子供が自覚することが大切です。

振り返りの観点例

学習内容の自覚

- ・分かったこと
- ・できるようになったこと
- ・身に付いたこと
- ・課題設定の妥当性
- ・新たな疑問 など

学び方の自覚

- ・学習形態や学習ツール
- ・理解が進んだきっかけ
- ・学習に役立った学び方
- ・次に生かしたい学び方
- ・試行錯誤したこと など



学びによる変容の自覚

- ・子供が自分の学び（学習内容と学び方）をメタ認知できる工夫
- ・他の単元（題材）や教科等との比較も効果的

子供が自分の学びをメタ認知できる工夫

振り返りシート例

○学習前

○学習を終えて

学習の前後で考えの比較

○学習計画

日付	学習活動	学習内容	学び方
		できたこと/考えたこと	次に取り組んでみたいこと
		学習内容と学び方を別に記述	
		できたこと/考えたこと	

理解が進んだきっかけ
次に取り組んでみたいこと
自分なりにがんばった学び方

- ・子供が自らの学びを評価できるように、参考として、よい振り返りの記述を全体に紹介する。
- ・教師は、様々な場面でICTを活用し、子供の学習の進捗状況の把握に努め、即座に支援や評価などを行う。

3 評価計画を考える

学習評価のポイントは？



次の観点に基づいて、事前に評価計画を考えることが大切です。



評価計画を考える際の観点

どの資質・能力を

どの場面で

何を用いて

誰が

授業では、

- ・適切な支援や指導を行うために、教師は子供のつまずきを想定して、補助教材などを準備する。
- ・子供が学習を振り返り、できたこととできなかったことを明確にさせる。
- ・教師は子供の取組を認める。



観点別学習状況の評価

- ・指導計画を踏まえ、単元（題材）のどの場面で、どの評価資料を用いて評価するかを計画

形成的な評価

- ・一人ひとりのつまずきを想定して、事前に補助教材などを準備

◆ Q & A

Q. 教師の役割はどのように変わりますか？

A. これまで同様、教師の指導性は大切です。「教える」という役割に加えて、子供の主体的な学びを支援する「伴走者」としての役割も必要となります。



子供たちの興味・関心を引き出したり、子供たちの学びをつなげたりするなど、子供たちの学びを支援しましょう。

Q. 子供が自分で学習しているようには見えるのですが、本当に自分で学習できているか不安になります。

A. はじめは、友達の様子を見ながら学習を進める子供もいます。学習活動を行う目的や意味を問いかけるなど、徐々に子供がその活動の目的を自覚しながら学習を進められるようにしましょう。



「何をしているの？」(行為)を聞くだけでなく、「何のためにしているの？」(目的)も確認しましょう。

【参考】山梨県教育の目指す方向性

基本方針Ⅰ 子供主体の授業への教育観の転換

施策の方向性(Ⅰ) 自立した学習者の育成

◆施策の目指す姿

【現在】

Society5.0の社会において新たな価値を創造する人材の育成に向け、現状の一斉授業スタイルから、子供主体の授業への転換が求められている。



【将来】

多様な他者と協働したり、自己調整したりして学習を進めていく子供主体の授業への転換を図ることにより、子供一人一人の関心・意欲や特性に基づいた子供の力を伸ばす学びが実現している。

◆施策の概要

Ⅰ 個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実

具体的な取り組み

- 各教科等の特質に応じた学習を推進しながら、多様な他者と協働することの重要性などを実感することができるように努めます。
- 学校の授業に、子供が学習状況を自分で判断して学習を進める「自由進度学習」などを導入しながら、従来の一斉授業による「教師主導の授業」から、「子供主体の授業」への授業観の転換を進めます。

Ⅱ 問題発見・解決能力の育成

具体的な取り組み

- 児童生徒が自ら学習課題や学習方法を選択する機会を設けるなど、児童生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習を推進します。
- 各教科等において問題の発見・解決に必要な力を身に付けられるよう、教育課程の実施上の工夫を行います。

山梨県教育振興基本計画より抜粋



次期学習指導要領の改訂に向けた情報はこちら
初等中等教育分科会：文部科学省

1人1台端末の活用方法に関する優良事例等の情報はこちら
StuDX Style（スタディーエックス スタイル）：文部科学省



山梨県教育委員会義務教育課 教育指導担当HPはこちら
山梨県／義務教育課 教育指導担当

子供主体の授業づくり
ハンドブック

令和7年2月発行

山梨県教育委員会

義務教育課

所在地 〒400-8504 甲府市丸の内一丁目6番1号

T E L 055-223-1764・055-223-1765

**子供主体の
授業づくり
ハンドブック**